

4月27日(金)大臣官房長・秘書課長記者会見（冒頭発言）

（矢野官房長）

官房長の矢野でございます。皆様、本日は急遽お集まりいただきまして誠に恐縮に存じます。お騒がせをいたしております福田前次官のセクハラ問題につきまして、財務省といたしましては、セクハラ行為があったと判断をし、処分を行うことといたしましたので、その内容をご説明させていただくために記者会見の場を設けさせていただきました。

麻生財務大臣もかねてからも述べられておりますように、セクハラは被害女性の尊厳や人権を侵害する行為であり、決して許されることではございません。この会見に先立ちまして、株式会社テレビ朝日に対しまして、セクハラ行為を受けた方へのお詫びをご本人にお伝えいただくようお願いを申し上げたところでございます。

財務省全体の綱紀の保持に責任を負うべき事務次官がこのような問題を起こし、行政の信頼を損ね、国会審議にも混乱をもたらす結果となっておりますことは、誠に遺憾であります。関係者の皆様に深くお詫びを申し上げます。申し訳ありません。

それでは、秘書課長の伊藤より、お手元の資料をご説明させていただきます。

（伊藤秘書課長）（「福田前事務次官に対する処分について」を説明）

（矢野官房長）

今回、問題となりましたような1対1の飲食におけるやりとりにつきましては、財務省の調査で詳細な事実関係を明らかにしていくのは難しい面もございました。ただ、先ほども伊藤も申しましたように、調査に時間をかけ過ぎることは、被害者保護上問題であるということも踏まえまして、本日、福田前次官の処分を判断するに至ったものでありまして、こ

れをもって調査は終了したいと考えております。

今後は4月24日（火）の記者会見において、麻生財務大臣が述べられましたように、財務省全体として、今回の問題をきっかけとして、今後どのように対処していくかという点も極めて重要だと考えております。セクハラ、パワハラを決して許さないという組織文化を徹底していくため、まずは幹部職員を中心に集中的に研修を行い、更に、女性をはじめとする職員の意見を丁寧に聞いた上で、更なる方策を講じていくことが必要だと考えており、速やかに検討の上で実施に移していく考えです。

私どもからは以上です。

以 上